

『颯と流』は、富士・東部地域教育の様々な活動、情報等を掲載し、

## 地域教育の「横の連携」と「縦の接続」

を目指す富士・東部教育事務所が発行する情報紙です。1年に6回程度の発行を予定しています。

富士・東部教育事務所地域教育支援スタッフでは、

- (1) 家庭、学校、地域の連携による地域ぐるみの教育活動の活性化を図る。
- (2) 地域における体験活動・ボランティア活動の環境を整備し、地域教育力の活性化を図る。

を目標に掲げ、地域の教育力を高めるためのコーディネーターとして、家庭・学校・地域社会がお互いに連携を深め、青少年の健全育成のため活動しております。

**SOCIETY5.0「超スマート社会」は人間が中心の社会です。**  
**「人間としての強み」の育成を目指した異校種や地域と連携した活動を紹介しています。**



## 子どもたちの教育は地域全体で担う !!

### 第22回 南都留地域教育フォーラム

南都留地域教育推進連絡協議会（会長：小佐野雄也河口湖南中学校長）は、11月1日（金）に下吉田中学校・下吉田コミュニティセンター・南都留教育会館において「令和元年度（第22回）南都留地域教育フォーラム」を開催しました。今年度は「『子どもたちの教育は地域全体で担う』～みんなで育む地域連携・地域交流～」をテーマに、全体会及び7つの分科会を行い、当日は地域の子どもの育成に関わる各団体から約300名の参加がありました。

全体会の基調提案では、「『連携・協力』をこれまで以上に意識していくこと」や「地域の子どもたちを中心に据えて、情報交換を進めることにより、理想的な教育のあるべき姿をつくっていく」ことが提案されました。アトラクション「光っ子連携コンサート」では河口湖南中学校の生徒約130名が和太鼓・プラスバンドの演奏に合わせてソーラン節を力強く踊り、会場の参加者を魅了しました。全分科会で事前の打ち合わせを開き、分科会の運営や討議の重点を明確にした上で当日に備え、また助言者の方々から専門的知見から指導・助言をいただき、大変実りある分科会となりました。

当日は、公私ともにお忙しい中、教育フォーラムに参加いただきましてありがとうございました。皆様からいただきましたご意見・ご感想が生かせるよう、今後とも地域と連携した教育を推進していきたいと考えております。

最後に、会場の提供・準備を快く引き受けて下さいました、下吉田中学校・下吉田コミュニティセンター・南都留教育会館の方々をはじめご協力いただきました関係各位に心より御礼を申し上げます。

【 カラー版は、富士・東部教育事務所のHPからご覧いただけます。】

URL：<https://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ft/jouhoushibackn.html>】

地域の皆様のご支援ご協力を得ながら、実りある実践となるよう努めて参ります。各事業についてご意見ご要望がありましたら、地域教育支援スタッフまでご連絡ください。 ※連絡先 富士・東部教育事務所 地域教育支援スタッフ TEL：0554-45-7841

## 上野原こども園 祖父母との交流会



9月13日（金）、上野原こども園（藤本静園長）にて、園への送迎をしていただいている祖父母の方々に感謝の意を表す機会として、「祖父母との交流会」が開かれました。ぱんだ組（4歳児）ときりん組（5歳児）の子どもたちが「とんぼ」や「100歳のうた」などを元気よく歌い、参加した約60人のおじいさん、おばあさんへ「ありがとう！」の気持ちを伝えました。誕生月ごとに、子どもと祖父母が一人一人自己紹介を行い、「おめでとう！」と祝ってもらう場面では、子どもだけでなく大人の方々も嬉しそうでした。祖父母の方々が昔ながらのお手玉やコマを上手に披露すると、子ども達から歓声が上がりました。

その後、園児たちは、音楽に合わせておじいさん、おばあさんの肩をトントンたたき、「いつまでも元気でいて下さい。」という思いを伝えました。この交流会は、子どもたちが「おじいちゃん、おばあちゃん、ありがとう！」を伝える時間でしたが、祖父母の方々も、孫の成長を間近で見ながら、和やかに温かい時間を過ごすことができたようです。世代間の絆を強め、祖父母世代の知恵などを子どもたちに伝承する良い機会となりました。



## 勝山中学校 花育活動



9月26日（木）、勝山中学校（古屋義幸校長）にて勝山花き研究会、富士河口湖町役場、富士・東部農務事務所の協力を得て、花育活動が秋晴れのもと行われました。富士・東部農務事務所の方から植え付け方法、水・肥料やり、置き場所等の説明を受けた後、1年生44名が好きな色のパンジーを手に取り、一人一人のプランターに工夫をしながら花を植えました。この花植は、花の楽しみ方や地域農家への理解を深め、更には自然豊かな環境を大切にする気持ちを養う機会にしたいと実施されました。

生徒たちは農家の方々から花植えの手解きを受けながら、丁寧に作業を行っていました。参加した生徒は、「普段できない花植えをみんなで協力してでき、地域の人と交流ができて良かった。花を大事にしていきたい。」と笑顔で話していました。寄せ植えを行った作品は、町文化祭・富士北麓地産地消花フェアで展示をし、多くの人に鉢植えを観て楽しんでもらう予定です。この活動を通して、地域の方も学校や子どもたちに対する愛着が湧いているようでした。伝統ある行事であり、地域・行政・学校の連携が上手くいっている、他の学校の参考となる活動でした。

（ビオラパンジーは寒さに強く、標高の高いところで育てると色がきれいな花が咲くようです。）



## 伊藤知治教士八段剣道教室



10月27日（日）、北都留地域教育推進連絡協議会（地域教育「明日の風」）、大月市剣道連盟、上野原市剣道連盟により、「令和元年度 第15回 伊藤知治教士八段剣道教室」が大月短期大学体育館にて開催されました。大月市出身の伊藤知治先生は剣道八段・居合道八段で警視庁名誉主席師範であり、企業や大学の剣道部師範として後進の指導にあたられています。当日は保育園児、小・中・高校生、保護者や指導者を含め約120名が稽古に参加をしました。伊藤教士から、学びにはゴールがなく奮らず向上心をもって繰り返し練習

をすることや他者を思いやる大切であると教えていただきました。体育館は子どもたちや指導者の声と熱気で溢れていました。普段と異なる稽古を行った子どもたちは、ハトハトになりながらも充実している様子でした。人間形成や人間育成につながる話や練習が詰め込まれた貴重な剣道教室でした。

## 模擬店で交流！

### 小菅小学校 笑顔あふれるすげのこまつり



9月21日（土）、小菅小学校（伊藤秀一校長）は同校体育館にて地域との繋がり場の場として「すげのこまつり」を開催しました。村長さんを始めとし、お年寄りや保護者、村の駐在さんら約200人が来場しました。地域の方々と積極的に触れ合い、感謝の気持ちを表すという目的のごとく、会場は熱気に溢れていました。オープニングでは、4年生から6年生による力強く堂々とした太鼓の演奏が披露されました。この太鼓演奏は、文芸・科学・音楽・芸能・語学などにおいてめざましい成果を収めた学校に送られる「第60回山人会賞」を受賞しました。

各学年が「総合的な学習の時間」で学んだことをもとに、教員志望の東京学芸大学の学生たちのサポートを得て、子どもからお年寄りまでが楽しめるように工夫された模擬店を開きました。6年生の「ジャガーズ事務所～世界に一つだけのいも～」ブースでは、臨海学校で学習したことがクイズとして出され、その賞品として子どもたちが育て、調理したジャガイモ料理が振る舞われました。子どもたちは参加者と触れ合い、喜んでもらうことで、達成感を感じているようでした。自己肯定感が培われ、表現力や社会性の向上が期待できる、そんな活動でした。「村の宝」である子どもたちを村全体で大切に育てている小菅村の一コマでした。



## 自作のわらじで地域学習！

### 初狩小学校 笹子峠越え遠足



矢立の杉

樹齢1000年を超える山梨県指定の天然記念物。  
高さ：約28m  
根廻り：14.8m  
杉良太郎さんの歌の題材となった杉。

10月3日（木）、初狩小学校（鈴木仁校長）の6年生10名とその保護者、職員が学校応援団所属の地域の方や大月郷土資料館館長の協力を得て旧甲州街道の笹子峠を越える遠足に参加しました。子どもたちは自分たちで作ったわらじ（藁は5年生の時に育てた稲を活用）を履いて、明治天皇御野立所跡や矢立の杉を見学しながら甲斐大和まで歩くなかで、自然を観察し、自然に親しみ、昔の旅人に思いを馳せました。

事前学習として、地域の山や川などの地形や、松尾芭蕉・山本周五郎といった文人、江戸時代の文化に関する調べ学習をし、また地域の方から手解きをしていただきわらじを作成して準備をしてみました。

当日は、旧甲州街道の森の中を散策しながら、調べたことを実際に目で見て、肌で感じ、学習を深めました。矢立の杉に到着すると、

教頭先生が扮する「山の主」が現れ、クイズを出し、親子で協力してそのクイズに答えていました。子どもたちは、「歩いていると、親指と人差し指の間が痛くなったが、自分たちで作ったわらじを履いて歩くのはワクワクした。」と微笑みながら言っていました。地域に関する探究活動・体験活動をとおして、豊かな自然や受け継がれてきた文化などの地域の魅力を再認識できる活動であり、更には自分の地域を誇りに思い、郷里を愛することに繋がる貴重な機会となりました。



## 河口湖北中学校 親子ふれあい講座



### 絵手紙 講座

どの作品も味があって素敵！

わしながらにこやかに料理をしていました。

写真講座では、写真家のテラウチマサト氏から、「普段知っていると思っていても、実は分かっていないことが多い。写真を撮ることは、ものをよく観て、感じて、考えて、行動することであり、見慣れたものをさらに深く知ることである。」というお話がありました。写真を使ったゲームで楽しんだ後、親子でポートレートを撮り合いました。プロの写真家から学んだいくつものテクニックを生かし、親子でコミュニケーションを取りながら写した写真はそれぞれに素晴らしく、それをプロジェクターで映してテラウチさんが撮影者に質問しながらコメントを入れました。これぞ「親子のふれあい」と思える講座でした。受講した男子生徒が、「5年間写真を撮ってきたが、知らないことがいっぱいあります。写真が好きになった。」と感想を述べました。

どの講座も生徒と保護者が「本物」にふれることで、まさに感性が磨かれ、また地域の良さを知ることにもつながる「親子ふれあい講座」でした。

9月28日（土）、河口湖北中学校（渡辺幸之助校長）にて、25回目となる「親子ふれあい講座」が実施され、全校生徒とその保護者が参加しました。地域の方々が講師となり「韓国料理」「ドライフラワー」「ヨガ」「足裏マッサージ」「ガラス工芸」「絵手紙」「写真」「折り紙」の8講座が開講され、親子のふれあいや地域の人との交流、ものづくりの楽しさを体験する良い機会となりました。

韓国料理講座では、韓国出身の講師からとびっこおにぎりとタクケジャン（鶏肉スープ）の作り方を教えてもらい、辛さを調節しながら生徒と保護者が会話を交



### ヨガ 講座：親子で体のふれあ

## 都留第二中学校 都留二中を美しくする会



### 便器をピカピカに磨くぞ！

ながら素手で便器を擦っていました。タイルは目地のコンクリートがすり減らないよう円を描くように磨くことや、水を節約した清掃用具の片付け方を学び、また次の人のことを考えて片付けることを教えていただきました。清掃後、美しく光り輝く便器を前に、生徒たちの顔は達成感に満ち溢れているようでした。このトイレの清掃を通して、生徒たちは素直で感謝をする気持ちや他者へ配慮する心、水を大切にすることなどを学びました。日常の学校生活に繋がる学び多き活動でありました。

9月29日（日）、都留第二中学校（鬘櫛利和校長）にて、日本を美しくする会・山梨掃除に学ぶ会・向山塗料株式会社の協力を得て「第10回都留二中を美しくする会～トイレ掃除に学ぶ会～」が開かれました。PTA 研修活動の一環として、生徒と保護者が共にトイレ掃除を通して「謙虚・素直・感謝」の心を学ぶ機会とする活動です。当日は2年生106名、保護者24名、職員が10班に分かれ、自然界に優しい洗剤や数多くの掃除用具の説明を受けた後、県内外から来校した17名のボランティアの方々の指導のもと校内12カ所のトイレの掃除を行いました。終了後には保護者の手作りカレーを美味しく食べました。

始めはトイレ掃除を面倒くさがり、躊躇していた生徒たちでしたが、掃除が進むにつれてビニール手袋を外し、汗を流し



### 綺麗に並べられた掃除道



## 学校生活を通して、感じ、学んだ貴重な体験を発表 !!

### ひばりが丘高等学校 **生活体験文発表大会**



県立ひばりが丘高等学校（棚橋雅一校長）では、9月4日（水）に生活体験文発表大会を開催しました。各学年・クラス代表の11名が、「将来の夢」、「ロードレースのボランティア」や「アルバイトを通じた経験」、「大切な場所」等をテーマに発表を行いました。この発表会は、生徒が悩みや困難を省察し、生活をみつめ、文章にまとめることで表現力を養うことと、学校生活等を通して感じ学んだ貴重な体験を発表し、多くの人に感動と励ましを与えることを目標としています。

どの生徒の発表も体験に基づき心に迫るものでしたが、特に印象的だったのは、「自分が見えている世界」は暗く楽しくないものであったけれども、ひばりが丘高校で個性豊かな人たちや話をじっくりと聞いてくれる先生方に出会ったことで、人と繋がることの楽しさを知り、自分の世界が明るくなったという発表でした。

生徒達は、辛いことや頑張ったことなど様々な経験を通して、感動し成長を実感し、そこから希望が生まれ、それを元に将来の目標を見つけて前向きに生きていけるのだと実感できる発表会でした。自分の言葉を使って伝えることの大切さを学ぶ機会でしたが、近い将来社会に出た時にこの力が役に立つ日がくるでしょう。この発表会で選抜された生徒は、山梨県定時通信制教育祭への出場を予定しています。



## 君にできること ~自助・共助・公助~ !!

### 都留興譲館高等学校 **高校生災害ボランティアスクール**



9月6日（金）、社会福祉法人都留市社会福祉協議会、谷村地域協働のまちづくり推進会、都留興譲館高校主催の高校生災害ボランティアスクールが実施されました。生徒に災害ボランティアに関する知識を深めてもらい、いつ起こるか分からない自然災害発生時に、救助や誘導などの力になってもらうための実践力の育成を目的としています。当日は「聴覚障害者避難誘導訓練」「救命講習」「高齢者理解（疑似体験を含む）」「視覚障害者避難誘導訓練」「搬送訓練」「起震車体験」といった8つのプログラムが実施され1年生と2・3年生医療従事職等希望者が参加しました。午後には「日頃から備えることの大切さ～寸劇から学ぶ災害対策について～」の講演会が実施され、全校生徒が聴講しました。

視覚障害者避難誘導訓練では、生徒達はアイマスクを着け、白杖を持ち付き添われながら階段を昇る体験をしました。初めての経験に緊張している様子でしたが、講師の方の丁寧な指導により、介助の仕方や声を掛けることの大切さを学んでいました。生徒達は講師の先生方に積極的に質問をし、普段出来ない体験に真摯に取り組んでいました。災害発生時の行動力や危険回避能力の育成に繋がる貴重な体験でした。



## 一人一人に合った支援のために!!

# 南都留特別支援教育研究会学習会



8月27日(火)、一人一人に合った特別支援教育の充実を目的に、第3回南都留特別支援教育研究会(会長:下吉田東小学校 堀内一義校長)が、南都留教育会館にて開催されました。来年度本県にて開催予定の関東ブロック大会等が議題として話し合われました。また、「自閉症スペクトラムの児童生徒への支援」に関する学習会が実施され、ふじざくら支援学校の菊池恵先生による講義と明見小学校の吉澤弘子先生によるレポート発表(「関係機関との連携を生かした個別的教育支援計画の作成と活用」)がありました。

菊池先生の講義では、より深く子どもを理解するためには、教員が自閉症スペクトラムの特徴である「対人関係」「コミュニケーション」「想像力」の視点から子どもを理解する必要があるという話がありました。例えば、ジャージは着用できるけれど制服は着用できない子どもがいた場合、理由は触覚の特性からくることもあり、その特性を教員が知っていればより適切な支援が行えます。また、子どもが自立し社会参加できることを目指した指導が大切で、そのためには「自分らしい」人生をいかに生きていくかという視点から、ありのままの自分を受け入れてもらう経験や小さい成功体験を積み重ねることで、まずは自分のことを好きになれるよう支援していくことが大切です。この学習会はすべての子どもの教育に繋がる示唆の多いものでした。次回は2月18日(火)に第4回研究会が予定されています。



## 交流と体験的な学習で、楽しいひととき!!

# 青い麦の子大会



南都留特別支援教育研究会は、「青い麦の子大会」を3ブロックに分けて(吉田ブロック、湖畔・忍野・山中ブロック、都留・道志・西桂ブロック)開催しました。南都留地域の特別支援学級に在籍している小学生と中学生の交流会であり、体験学習を通し、生活能力を高め、協力し助け合うことの楽しさを学ぶための大会です。当日は、2日間で児童・生徒150名、引率教員143名が参加しました。



それぞれの会場で、午前中は体育館で開会式やふれあい集会が行われました。一人一人が元気に自己紹介をした後は、ビンゴ・じゃんけん列車・歌などのゲームを楽しみ、他校の子どもたちと親睦を深めました。開会式・閉会式やゲームは子どもたちが司会・進行を行い、子どもたちによる手作りで温かみのある活動でした。ビンゴゲームでは、中学生が小学生にも分かりやすく楽しめるクイズを出しながらゲームを進め、ビンゴとなった子どもたちは賞品として好きなシールを嬉しそうにもらっていました。ゲームを通して自然な形で子どもたちが相互にコミュニケーションを図り、会場は子どもたちの笑い声が響き渡っていました。湖畔・忍野・山中ブロックでは、バイオリン・マリンバ・ドラムやピアノの演奏、ソプラノ歌手の歌唱を鑑賞しました。その後、児童・生徒も合奏に加わり、参加型の楽しい音楽会となりました。

子どもたち一人一人が役割を持ち、責任をもってそれぞれの仕事を見事に果たしていました。「青い麦の子大会」は、子どもたちが充実感や達成感を感じられる、「自分を好きになれる」ことにつながる成功体験が満載の活動でした。

9月27日(金)

吉田ブロック : 富士すばるランド

湖畔・忍野・山中ブロック : 富士河口湖町民体育館・ちびっこ広場

10月4日(金)

都留・西桂・道志ブロック : 富士すばるランド

## 令和元年度 山梨県一日教育委員会(教育懇談会)

10月9日(水)に大月市立大月短期大学にて山梨県一日教育委員会(教育懇談会)が行われ、富士・東部教育事務所管内のPTA関係者など約60名の出席がありました。市川満教育長、教育委員及び教育委員会事務局職員の出席の中、4つのテーマ(「情報モラル」・「グローバル人材育成」・「働き方改革」・「児童虐待」)に関して様々な意見・質問が出され、活発で有意義な意見交換会となりました。